

学研労協 NEWS ニュース

第37回国立試験研究機関全国交流集会開催

『ソサイエティ 5.0、AI を研究現場から検証する』

学研労協と国公労連が主催する第37回国立試験研究機関全国交流集会（国研集会）が7月3日（水）研究交流センターで開催されました。国公労連笠松書記次長による基調報告の後、野村康秀氏（日本科学者会議科学技術政策委員会）が「ソサイエティ 5.0、AI の可能性と科学技術政策を検証する」と題して講演しました。次いで、個人アンケート結果の報告、昼食休憩を途中で挟みつつ、パネルディスカッションのための短い報告が4つ行われました。その後、フロアからの発言も含めたパネルディスカッションが行われました。

野村氏の講演では、政府が発出する多数の政策文書を比較し、アベノミクスにおける成長戦略のなかで目指すべき新たな社会とされる「Society5.0」という言葉が2015年11月に政府文書に登場し、その年3月から登場した「超スマート社会」に取って代わる言葉として急に使われるようになったことを指摘しました。次に様々なキーワードの使われ方を分析して、Society5.0の実現を通じて政府がどのような社会変革を目指しているかを解説しました。さらに政府がSociety5.0を実現するための欠かせない技術として人工知能（AI）を位置づけていること、Society5.0という言葉が政策文書に登場する背景に経団連の強い働きかけがあることを解説しました。最後に、政府の成長戦略や科学技術政策、国立研究開発法人をめぐる政策について総括的に批判し、盛りだくさんの講演を締めくくりました。

個人アンケートでは、従来から続けている質問に加えて、Society5.0および働き方改革について質問した結果が報告されました。従来通り、職場では「手続きが煩雑すぎる」、「目的基礎研究が軽視され、研究シーズが枯れてきている」、「資金の確保ができず、研究を継続・発展させることが困難になってきている」などの回答が多数を占めました。Society5.0に関しては、組織目標に「Society5.0の実現」が書き込まれた職場もあるものの、自由記入欄にSociety5.0に対して批判的なコメントが多数書き込まれたことが印象に残りました。働き方改革に関する質問では、「働き方改革に関連する法令・就業規則の改正について説明があったか」という質問に対して、「説明はない」と回答した人の割合が60%を超え、働き方改革の周知そのものが課題であることが示されました。

パネルディスカッションのための報告では、

1. 中長期計画期間中に急にSociety5.0への対応を突きつけられた農研機構の現状、
2. Society5.0論に代表される政策が要求する「大学改革」とそれに抗う運動について、

筑波研究学園都市研究機関労働組合協議会（学研労協） <http://www.gkn-rkyo.sakura.ne.jp/>

3. ポスドクと若手研究者の問題、

4. アメリカ、ドイツおよびニュージーランドの3国の研究機関での滞在経験とそれから考える日本の研究機関のあり方、

の4つの話題が提供されました。その後、野村氏の講演と4つの話題提供に関連して、参加者からの質問や意見を含めて、ディスカッションが行われました。参加者数は69人でした。なお、アンケート結果等は、後日学研労協ウェブサイトで公開される予定です。

第37回国研集会参加者のご意見 < 抜粋 >

Q1. 野村康秀氏による講演の感想を記入ください。

- ・ソサエティ5.0について理解でき、その問題について知ることができた。
- ・ソサエティ5.0について、わかりやすい説明をして頂き勉強になりました。
- ・IT企業優遇に見える流れも、その点だけ見て批判するのではなく、将来、例えば農業分野の発展や国民生活の維持・向上につながるのか、という点で広く長期的な視点で考えるべき。

Q2. パネリスト報告の感想をお書きください。

- ・4つの問題について、それぞれの報告者からの立場で情報やご意見を知ることができた。悪い点ばかり目立ったがより良くなっている点はまったくないのかも少し知りたかった。
- ・各現場から見たソサエティ5.0に関する考え方が分かり勉強になりました。
- ・国立研究開発法人に財界側の意向が強くなってきている現状を知り、認識を新たにしました。

Q3. パネルディスカッションの感想を記入ください。

- ・分会活動に資する情報を多々いただけた。
- ・話題豊かな議論に感じた。
- ・若手研究者、ポスドクの雇用問題を考えていかないと若者の研究離れが進んでしまい、競争力低下につながる。
- ・それぞれの立場から角度を変えた発言が聞いて良かったと思います。

Q4. 集会全体を通しての感想や今後の取り組みについての要望等を記入ください。

- ・充実した集会で収穫も多かったと思いますが、少し長いですね。お疲れさまでした。
- ・世の中の動き、時の政権の施策など大きな流れやそれに応じた多様なセクターの動きも注視することが求められていることを感じた。
- ・今後とも、研究者の職務環境の改善について考えていける取り組みが必要と思った。
- ・組織アンケートの分析や総括がないのは残念。
- ・大勢の中では発言しにくい。身近な話題の発言も欲しい。ということで、可能なら分科会がほしいです。
- ・環境問題もお願いします。特に原発の危険性とかも知りたいですね。
